

## 編集後記

アジアが変調を来たしている。今秋の香港市場の株価大暴落や、タイ、インドネシアの通貨不安、株価急落、そして韓国経済の急停止など、アジアは次々に傷口を広げている感じである。返還後の中国本土資本の大量流入をみている香港、バブル経済の崩壊状態のタイ、長期政権の歪みを抱えるインドネシア、財閥に偏重して経済の舵取りを続けてきた韓国など、ここにきて、それぞれの持つ脆弱性が一気に露呈してしまったという状況である。一方、わが国でも金融機関の相次ぐ倒産、重くのしかかった不況感など、決してこれを対岸の出来事として傍観できる状況にはない。

アジアの連鎖的な経済不安といい、地球温暖化防止京都会議でみられた先進国と発展途上国との対立、その結果としての排出権の売買条項といい、われわれが一蓮托生の地球市民の一員であることを、強く認識させるものである。かつての「成長のセンター」の回復は、一体いつになるのであろうか。

創刊から数えて第30号目を迎えた『流通問題研究』は、それでも元気に再スタートを切ろうと考えている。

(1997年12月、古井)